

三中校区拡大学校運営協議会

学校の先生から生の声を聴こう(大人熟議)

先日、6月23日(金)に渡小学校多目的室で第1回学校運営協議会を受けて、学校運営協議会委員と三中校区の各学校教職員、約50名ほどが熟議(熟慮と議論)を行いました。

第1回学校運営協議会では、各学校の学校運営の方針等が示されましたが、具体的な今年度の取組を考えていくことが難しかったため、今回の熟議で、教職員一人一人の生の声を直接聞きとることで、次の必要な取組のアイデアや必要な取組を考える機会になるのではと学校運営協議会で検討されました。

今回のテーマは、大きく「三中校区の地域・家庭・学校の連携について」ということでしたが、コミュニティ・スクールがスタートをして、「成果だなと感じていること」「こんなことうまくいっている」「地域をはじめとする方々に、力を貸してほしいこと」「こんなことに困っている」といった話題をもとに、5～6人ほどの小さなグループになって、教職員及び学校運営協議会委員が膝を交えながら意見交換をしました。

昨年度もこうした取組を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のために、中止を余儀なくされました。



▲小グループでの熟議の様相

教職員の参加者も、三中校区で一堂に会しての協議や、学校運営協議会の皆さんと顔を直接合わせての話し合いに、とてもいい機会になったという声が聞かれました。



【各小グループの報告】の主な声

■コミュニティ・スクールがスタートして、地域学校コーディネーターにより、子どもたちの学習の様々な部分に地域の方々が入られることで学びが充実するようになっている。今後も、いろいろな地域の方の力を活用していきたい。

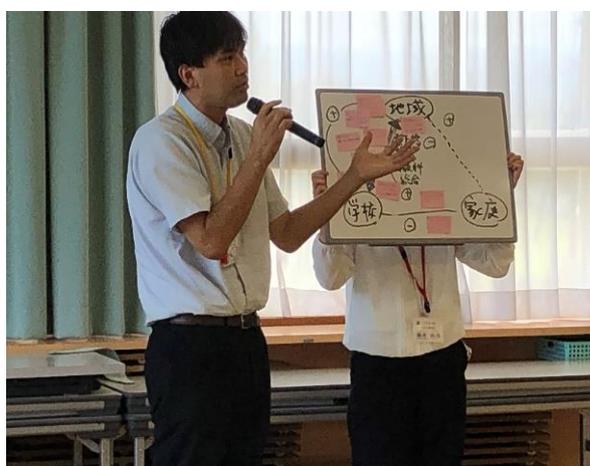
その一方で、急な学校側の要請も地域学校コーディネーターさんにお世話になって受け入れてもらっている現状がある。

学校側としては、今後、きちんと年間の学習計画(スケジュール)を前年度中に組み立てておくことが重要だと考えている。また、活動を通しての振り返りが大切だと思う。

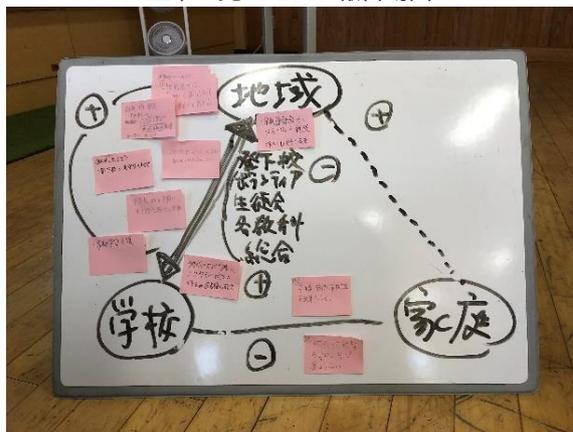
- コミュニティ・スクールがスタートしてここ数年の間で、学校と地域をつなぐコーディネーターの力によって、子どもたちと地域の方とのつながりが増し、コミュニケーション能力が身についてきた。また、学校の中での狭い人間関係が地域とのつながりで豊かになってきている。
- 今後、今回のような熟議の形で、小学校・中学校の教職員に地域の方も一緒に入ってもらうなどの工夫があってもよい。
- 地域の中で子どもたちの体験活動がいろいろ行われるようになってきている。学校側としても、そうした中で子どもたちの反応や声を知りたい。
- 家庭学習の習慣を子どもたちに身につけていくために、家庭支援の必要性を感じる。親同士のつながりが希薄になっているという問題もある。そのためにも、親同士がつながる居場所(コミュニケーションや悩みを相談したりできる場)を学校の中に作ってはどうか。
- 地域の活動や公民館のイベント等に中学生が企画・運営に携わるなど、地域と子どもたちとのつながりが見え始めている。また、学力向上(第三中学校区の課題)への対応として、地域の中で中学生が小学生に学習の指導ができるような取組を考えてもよいのではないか。
- コミュニティ・スクールがスタートして、学校と地域とのつながりを感じる様々な活動が目に見えるし、その効果も感じて

いる。その一方で、地域と家庭とのつながりについては、大きな課題があると思う。今後、学校と地域とのつながりを深めていく中で、子どもたちの成長や姿が家庭に伝わり、家庭と地域とのつながりが深くなっていくことに期待をする。

学校の教職員も、9年間の総合的な学習の時間の年間指導計画のもとに、積極的にかかわり、地域と学校(子どもたち)とのつながりを充実させていきたい。



▲三中の先生による報告場面



▲ 熟議の報告ボード

熟議の後に、第三中学校区の学校運営協議会委員で熟議の振り返りが行われ、次の学校運営協議会で、熟議での声をどうかしていくのか検討することになりました。